

岡山大学 MONTHLY DIGEST

vol. 123
2026.7

TOPICS

1

「岡山大学卓越教授称号付与式」を開催



本学は6月22日、「岡山大学卓越教授称号付与式」を開催しました。本式典は、今年4月に新設した「岡山大学栄誉教授・卓越教授制度」の第1回称号付与を祝うとともに、本制度の趣旨を広く学内外に発信することを目的として実施されました。

授与では那須保友学長から、学術研究院先鋭研究領域（異分野基礎科学研究所）の沈建仁教授、学術研究院先鋭研究領域（資源植物科学研究所）の馬建鋒教授、学術研究院環境生命自然科学学域の鈴木大介教授、学術研究院先鋭研究領域（異分野基礎科学研究所）の仁科勇太教授の4人に卓越教授の称号認定書が付与されました。

那須学長は「本学での長期的なキャリアの歩みをより魅力的にしていけることも重要であり、岡山の地での研究活動が喜びとしてより一層感じてもらえるようにしたい」と激励しました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15472.html



TOPICS

2

岡山大学と広島大学が技術職員の相互受入研修を実施 ～研究基盤を支える技術人材の高度化と連携強化を推進～

本学総合技術部は、広島大学コアファシリティマネジメントセンターと技術職員の高度化と両機関の相互理解の促進を目的として、技術職員相互受入研修を実施しました。本学からは尾崎亮太技術専門職員が3月10～19日の8日間、広島大学で研修を行い、広島大学からは林祐太技術主任が6月22～26日の5日間、本学で研修を行いました。

研修では、それぞれの大学が有する特色ある技術や業務運営方法を学ぶとともに、日常業務を通じた技術・知識の共有や意見交換を行い、双方の技術力向上につながる有意義な機会となりました。また、業務内容や課題を共有することで、大学の枠を超えた技術職員同士のネットワークが強化され、今後の継続的な連携や共同事業の推進につながる基盤を構築することができました。

尾崎技術専門職員は「広島大学の技術職員と同様な業務に従事したことで、設備環境の違いによる加工手法や製作可能な製品の違いを実感した」と話しました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15512.html



Pick up!

ヨット部片山さん・藤井さんペアが 2026年470世界選手権へ出場決定！



8月10～17日に江の島ヨットハーバーで開催される「2026年470世界選手権（江の島）」に、ヨット部の片山夏帆さん（理学部3年）、藤井颯大さん（工学部3年）ペアの出場が決定しました。

大会に向け、片山さんは「今回、世界選手権のようなハイレベルな大会に参加できるという大変貴重な機会をいただけたことに感謝しています。レースで練習の結果を発揮することをはじめ、他選手からさまざまなことを学ぶことなど、自分にできることに全力で取り組みたいです。また、今回の大会での学びを部に還元し、中国インカレでの勝利につなげられるよう努めます」と意気込みを語り、藤井さんは「部の発展という点でこの上ない機会をいただきました。大会を通して学んだことを部のデータの一部として蓄積し、チームの成長や将来につながれば幸いです」と話しました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/topix/topix_id810.html

TOPICS

3

愛媛大学と連携協定を締結－両大学の強みを結集し、瀬戸内から世界につながるスタートアップ・エコシステムの形成へ－

本学は7月23日、愛媛大学と「アントレプレナーシップ人材育成及びスタートアップ創出等の推進に関する連携協定」を締結しました。

本協定は、本学や愛媛大学などが参画する、内閣府の「NEXTグローバル拠点都市」に選定された「瀬戸内スタートアップコンソーシアム」の取り組みを推進するものです。同コンソーシアムは、愛媛県と岡山市を中心に、瀬戸内地域を一つの広域的なフィールドとして捉え、自治体、大学、企業、金融機関、支援機関などが連携し、スタートアップの創出や地域産業の活性化を目指しています。

本協定に基づき、両大学は、それぞれが有する研究シーズ、教育研究資源、産学官連携機能、地域連携機能および人材育成機能を相互に活用し、アントレプレナーシップ人材およびイノベーション創出人材の育成、研究成果の社会実装、スタートアップ・新事業の創出を推進します。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15530.html



TOPICS

4

「ロボット研究」をテーマに令和8年度「家族の日」のイベントを実施



本学は7月22日、教職員の家族を招き、岡山大学を知ってもらう「家族の日」を、共創イノベーションラボ(KIBINOVE)で開催しました。

今年は、工学部ロボティクス・知能システムコースの協力のもと、「ロボット研究」をテーマとして開催し、過去最多の35家族、約100人が参加しました。

同コースの教職員や学生、総合技術部の職員やロボット研究会の学生が、各種ロボットの操作やUFOキャッチャー、ペットボトル万華鏡づくりやVRなど、実際に操作したり作ったりできる体験企画を行い、幼児から高校生まで幅広い年齢の子どもたちが、それぞれ興味あるものに参加して楽しむ様子が見られました。

参加者からは「丁寧に教えてもらいながら、普段触れることのないロボットの操作という貴重な体験ができ、子どももとても喜んでいて」、「楽しみながら工学に興味を持つきっかけとなり、大満足の日だった」、「子どもたちに岡山大学の魅力が伝わってとてもよかった」などの感想が寄せられました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15535.html

PRESS
RELEASE雌のみで繁殖する外来ザリガニ「ミステリークレイフィッシュ」から
外来共生貝形虫を世界初確認！

岡山大学大学院環境生命自然科学研究科博士後期課程の成成南大学院生(応用生態学)、学術研究院環境生命自然科学学域(工)の中田和義教授(保全生態学)らの研究グループは、沖縄県に侵入した特定外来生物ミステリークレイフィッシュの分布状況と、それに共生する外来貝形虫について調査を行いました。その結果、ザリガニ類に共生する小型甲殻類の1種である外来貝形虫 *Ankylocythere sinuosa* を、ミステリークレイフィッシュから世界で初めて確認しました。

また、本貝形虫の日本最南端記録になるとともに、原産地である北米以外ではアメリカザリガニ以外のザリガニ類から初めて確認された事例となりました。さらに、本貝形虫が沖縄県内に定着しているアメリカザリガニからミステリークレイフィッシュへ宿主転換した可能性も示されました。

ミステリークレイフィッシュは、雄を必要とせず単為生殖によって繁殖する非常にユニークな外来ザリガニです。そのため、1個体のみが自然環境へ放流された場合でも新たな個体群を形成できる可能性があります。今回の成果は、本種が沖縄県内で分布を拡大しつつあることを示すとともに、外来種が共生生物を伴って分布を拡大する可能性を示した重要な研究成果です。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1572.html

